

事 項	りんご「ふじ」のわい化密植栽培における樹の生育と収量の経年変化		
ね ら い	本県のりんごわい化密植栽培における樹の生育や収量の経年変化について、これまで具体的に検討された事例はない。そこで、「ふじ」/M. 9 Aを供試し、栽植から30年間の経年変化を明らかにしたので参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 黒ボク土壌において、「ふじ」/M. 9 Aを4 m×2 mで栽植し、最上位側枝高3 m、樹幅2 mで、りんご生産指導要項に記載されている細がた紡錘形を目標樹形として密植を維持した場合、以下の生育、収量となる。</p> <p>(1) 目標樹形に達するのは8年生頃で、17年生以降樹勢は強勢となり、21年生以降になると樹形を維持するための剪定量が多くなる。</p> <p>(2) 10 a 当たり収量を4 t以上確保できるのは11～26年生ままでであり、27年生以降は小玉傾向となって4 tを下回る。</p> <p>2 以上から、10 a 当たり収量は26年生ままで4 t以上確保できるものの、果実品質（小玉化や着色不良の増加）も含め、比較的容易に目標樹形を維持できるのは10～20年生頃である。</p>		
期待される 効 果	わい化密植栽培の生産指導上の参考となる。		
利 用 上 の 注 意 事 項	本内容は、栽植された樹が全て健全で欠木がない条件を前提としたものである。また、土壌条件や使用台木、栽植距離、樹勢、剪定方法などで異なる場合がある。		
問い合わせ先 (電話番号)	りんご研究所 栽培部 (0172-52-2331)	対 象 地 域	県下全域
発表文献等	平成12～26年度 試験研究成績概要集（りんご）（りんご研究所） 東北農業研究 第68号		

【根拠となった主要な試験結果】

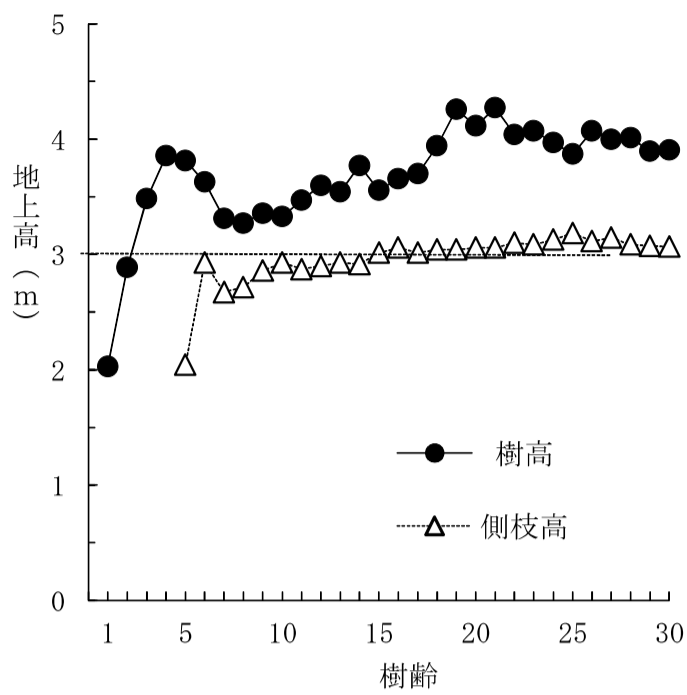


図1 樹高及び側枝高 (平成26年 青森りんご研)

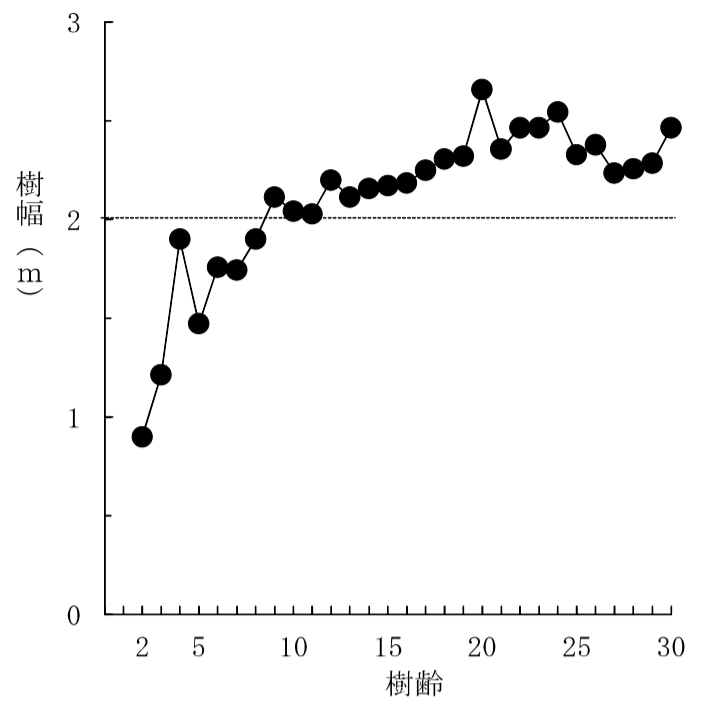


図2 樹幅 (平成26年 青森りんご研)

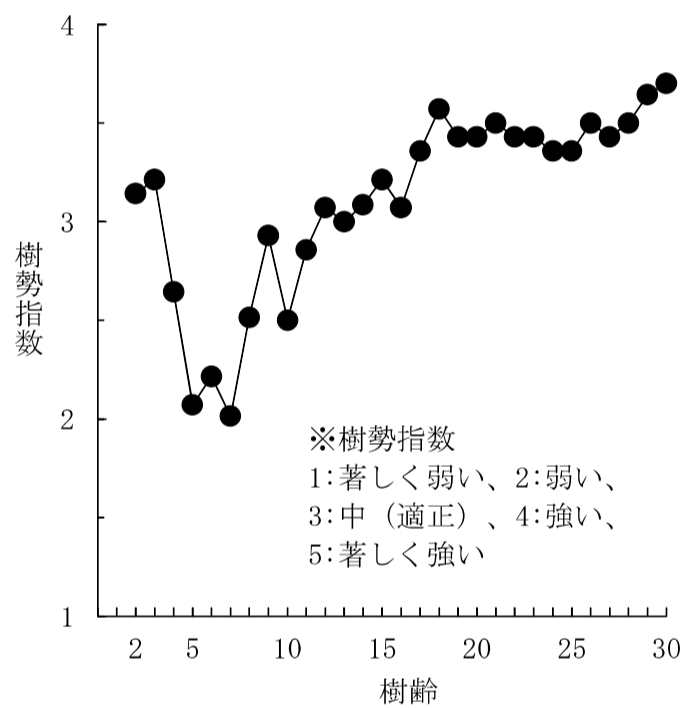


図3 樹勢指数 (平成26年 青森りんご研)

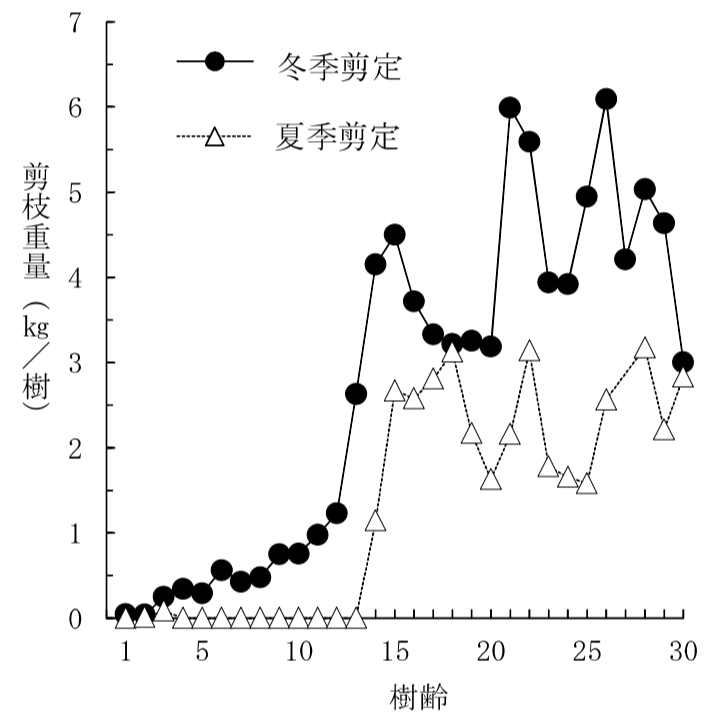


図4 剪定枝重量 (平成26年 青森りんご研)

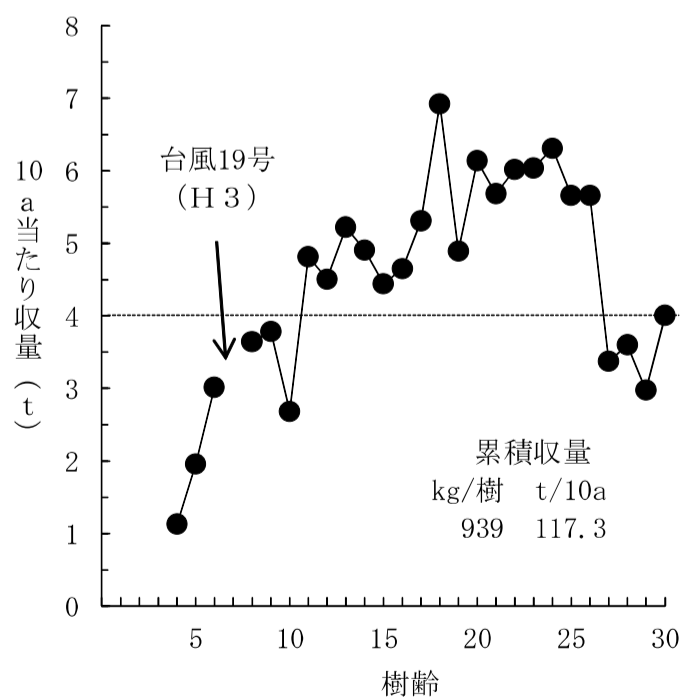


図5 10a 当たり収量 (平成26年 青森りんご研)

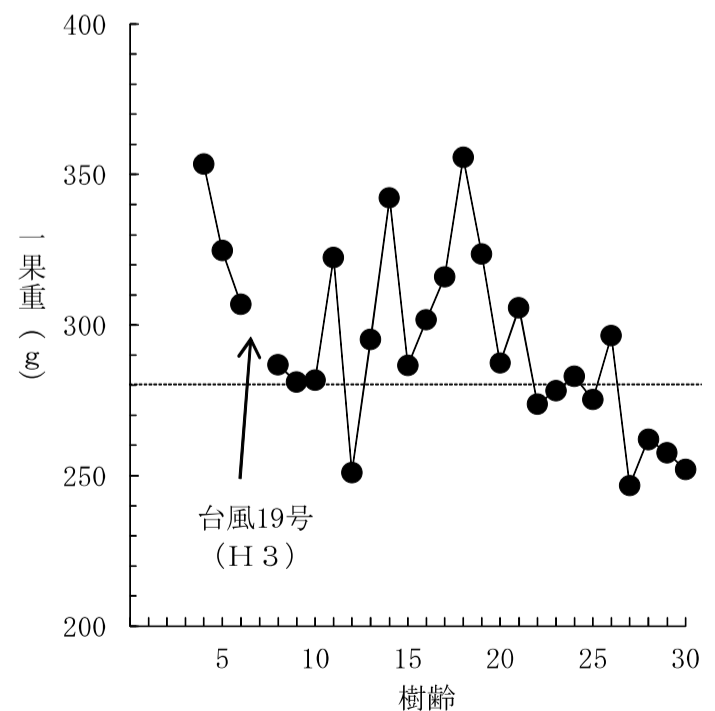


図6 一果重 (平成26年 青森りんご研)